昭和４０年４月５日第三種郵便物認可
（旧「公衆衛生」）

２０２４年３月１日発行
第６３４号（通算）
発行：奇数月１日
会員購読料：１月１０円(年間６０円)
一般購読は別途送料

環境づくり・健康づくりのコミュニティ情報紙

環境と健康

発行者
一般財団法人 ～みんなの生命をまもりつづけたい～
広島県環境保健協会
佐藤　均
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号　730−8631
電話　082−293−1511番
振替口座01380−2−27511
URL　http://www.kanhokyo.or.jp/

脱温暖化推進員フォーラム 2024 開催

「私たちの街からデコ活!」をテーマに研修

互いの教材を体験してノウハウを共有

２月７日に広島コンベンションホール（広島市）で、「脱温暖化推進員フォーラム２０２４」を開催しました。

このフォーラムは、互いの活動や課題・情報などの共有および交流を通じて、これからの活動のあり方を一緒に考え、実践活動の輪を広めていくことを目的に開催するもので、地球温暖化防止活動推進員や地球温暖化対策地域協議会など、県内各地で温暖化防止活動に取り組んでいる25団体74名が参加しました。

今回のテーマは「私たちの街からデコ活!」です。「デコ活」（※）は、２０５０年カーボンニュートラルおよび２０３０年度削減目標の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押しするため、国が展開している新しい国民運動です。

今回のフォーラムで得られた情報や体験を仲間と共有し、地球温暖化防止につながる「デコ活」に取り組んでいきます。

午前中は、東京大学大学院工学系研究科准教授 前真之先生に、『住まいの断熱性能を高めて健康快適・安心な暮らしを実現しよう』と題して、冬暖かく夏涼しい暮らしを送るためには断熱が重要であることなど、分かりやすく講演いただきました。

午後からは分科会を行い、TEAMMATEひろしま学習・交流会（第1回）「教材づくり」で作成した8つの教材のうち、6つの教材を体験しました。教材の使い方を学ぶとともに、学習会の開き方のノウハウなどを共有しました。

教材は、A2サイズのSDGsかるた、楽しみながら学べるエコすごろく、グリーンカーテン効果体感ツール、コンポスト冊子などです。

これらの教材は、脱温暖化センターひろしまの貸出教材としていますので、ぜひご活用ください。

※デコ活：二酸化炭素を減らす脱炭素（Decarbonization）と、環境に良いエコ（Eco）を含む『デコ』と活動・生活を組み合わせた新しい言葉。

（脱温暖化センターひろしま）

断熱の重要性について話す前准教授（上）、分科会でSDGsかるたを体験する参加者（下）

地球温暖化防止活動推進員誕生

脱温暖化に向け普及啓発活動などに期待

令和５年12月16日、令和５年度新規推進員養成研修を受講した９団体20人に、広島県から「地球温暖化防止活動推進員」が委嘱されました。

今年度は、公衛協やTEAMの他に、広島経済大学と広島修道大学の学生が研修に参加し、自らが企画した事業を実践しました。若い世代への啓発だけでなく、就職活動における自己PRとして、また社会人になった時にこの経験を活かしてもらいたいと思います。

20人の推進員には、地域における温暖化防止のための情報提供や普及啓発活動、地球温暖化対策地域協議会のマネージメントなど、今後の活躍を期待します。

企画内容を話し合う参加者とスタッフ

新規推進員が企画・実践した事業テーマと主な内容

①ごみの分別・減量

広島市TEAMや廿日市市大野公衛協、広島修道大学は、子どもを対象にプラスチックについて考える学習会や、地区住民を対象としたプラスチックごみの資源化に向けた分別の徹底、高校生を対象としたごみの分別に関する学習活動に取り組みました。

②省エネ

広島市TEAMやおんどTEAMは、保育園児を対象に電気の仕組みや節電について体験を通して理解してもらう講座や、地域の住宅を「うちエコ診断」を使って診断し、光熱費の削減に取り組みました。

③食品ロス

門田TEAMや広島経済大学は、地域住民を対象に食品ロスに関するアンケートを実施して関心を持ってもらったり、大学生を対象に規格外野菜の啓発や、廃棄される規格外野菜を活用した料理メニューの開発・販売に取り組みました。

④普及啓発

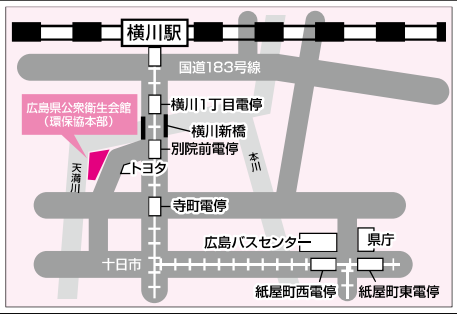
布野TEAMや福山市公衛協は、地元ケーブルテレビに出演し、家庭でできるエコ活動を紹介したり、小学生を対象に地球温暖化に関するお便りの作成・配布に取り組みました。

（脱温暖化センターひろしま）

きんせんか
琴線歌

歯科医院で考えたこと

私がいつも通っている歯科医院で診察を受けていた時、院長先生から「つい最近ＷＨＯから表彰されました。」と声をかけられました。ここは家族全員がお世話になっている医院で、特に子どもたちはフッ素塗布を定期的に受けていました。この歯科医院では、毎年先生方が夏に太平洋の島国を訪問し、その国の子どもたちの歯科健診や指導を熱心に行っておられるのですが、その活動が表彰されたのです▼この国では、政府や学校関係者が先生方の熱心な活動に影響を受け、学校での歯科健診が熱心に進められ、成果が出ているようです。「虫歯は、世界中で一番多くの人が罹患している疾患。子どもの頃に防いでおけば、その国の医療費負担の軽減につながる。」と院長は活動の意義を話してくださいました。驚くことに、この活動は25年間継続しており、ＷＨＯだけでなく、国連本部でも優れた活動として紹介されたそうです。このような取り組みは他の国でも参考になることと思います▼私は、今でこそ定期的に歯科健診を受けていますが、子どもの頃に歯磨きを適当にしていたためか、残念ながら、世界の人々と同様に多くの虫歯を治療しました。島国の子どもたちや努力した専門家に思いをはせつつ、子どもの頃に専門家から受けていたはずの指導を理解できていなかった自分が恥ずかしくなりました。虫歯のなかった頃に戻りたいです▼私は毎年人間ドックを受診していますが、当日運動や食事に関する指導を受けても、その後あまり継続できていません。専門家の指導を受け、行動変容することは難しいことですが、そのことの重要性を歯科医院でかみしめました。

（公益社団法人全国労働衛生団体連合会
専務理事　亀澤　典子）

一般財団法人 ～みんなの生命をまもりつづけたい～
広島県環境保健協会
〒730-8631 広島市中区広瀬北町９番１号（広島県公衆衛生会館）
TEL:082(293)1511 ［大代表］ FAX:082(293)1520
かんほきょう 検索
基本理念 みんなの生命（いのち）をまもりつづけたい。
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、持続可能な社会の発展に貢献します。